

巻頭の辞 金森修先生を追悼する

2016年5月26日13時41分に本コースの金森修教授が永眠されました。享年61歳でした。金森先生は2001年4月に教育学研究科助教授としてご着任になり、翌2002年5月に教授に昇進されました。2007年4月にコース再編により基礎教育学コースが誕生しますが、金森先生は創設時のメンバーの一人として、教育と研究の両面でコースの基盤をつくる役割を担われました。講義は、いつも膨大なノートを準備され、パワーポイントを使って難解な概念を緻密な論理で御説明になっていました。その御姿から学生たちは、知の営みの深さにいつも圧倒されていました。また、学生の卒業論文・修士論文指導においては、広いご見識から、本質をついた厳しくも暖かいコメントを心がけておられました。

金森先生を病魔が襲ったのは2014年でした。以後、先生は大腸がんの辛いご闘病の傍ら、様々な校務を全うされていました。教育においても終生、その姿勢が変わることはありませんでした。本年度第一回目の学部ゼミでは、教室のある3階まで階段を上る際に途中で何度もお休みにならなくてはならないほど、体力は弱っていらっしやったようです。しかしいったん授業が始まると、ご自身の授業の13回にわたる構想を構造的に熱を入れてお話になり、学生たちを最後まで知の力で圧倒しておられたとうかがっています。悲しいことに学部生に対してはこの日が事実上の最終講義となってしまいました。その講義(学部「生・権力論と教育」・大学院「知識論・学問論」)は、金森先生のシラバスの通りに愛弟子である奥村大介氏が非常勤講師として引き継いでいます。

私達を驚かせたのは、ご闘病の傍らに出版された書籍の数です。会議などでお目にかかり、かなりつらい御体調であるようにお見受けしていましたが、

2015年度には単著だけで3冊出版され、今年も6月に2冊の出版が予定され、さらに7月以降にも数冊の出版予定があるとうかがっています。研究者としてどう生きるべきかを金森先生は身を以て私達に教えてくださったように感じています。

先生は、「素晴らしい家族に恵まれ、すばらしい学部生・院生たちに囲まれ、そして自身の仕事においても多くの本を執筆することができ幸せな人生であった」ことを私たちに何度もおっしゃっていました。またお亡くなりになる間際には、ご自身の蔵書を若い人の研究のために本学総合図書館に寄贈したいことなど、具体的なお遺志をお聞かせくださいました。すべてにおいて納得のいく人生の形を模索されたことは、先生らしい最期だったような気がしています。

5月29・30日に行われた通夜・告別式には、教育学研究科の多くの院生・学部生・教職員だけでなく、科学史をはじめとする様々な分野の研究者が広く甲間に駆けつけました。先生のお人柄と共に、学問の世界での影響力の大きさを改めて目の当たりにした思いです。

金森修先生、先生にはまだまだ教えを乞いたいことが多くありました。余りにも早いお別れに言葉もありません。これからは先生が遺された多くの書籍を改めて拝読することを通して、心の中の対話を先生と続けていきたいと思えます。今日まで、本当にありがとうございました。心より哀悼の意を表します。

2016年5月30日 ご葬儀の夜に
基礎教育学コースを代表して
主任・教授 小国 喜弘